

# 火山防災対策会議（第2回）

## 議事概要について

### 1. 開催概要

日 時：平成28年2月10日(水) 10:00~12:00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：藤井座長、池谷、石原、田中、三浦、森田、加藤、森本（代理：松本）、横田、田中、西山、村上、関田、春日（代理：森下）、浦塚、棚田、桑原、藤沢各委員  
他

### 2. 議事概要

<本会議における検討内容の拡充および会議名称の変更>

事務局(内閣府)から本会議における検討内容の拡充および会議名称の変更について報告。

<最近の火山防災対策の取組状況等>

各機関から、最近の火山防災に係る主な取組、平成28年度予算案等について紹介。また、事務局(内閣府)から「御嶽山噴火を踏まえた今後の火山防災対策の推進(報告)」の取組状況について報告。委員からの主な意見等は以下のとおり。

○噴火が発生してから緊急に行う場合だけでなく、噴火前にいかに充実した観測網を整備するかも重要であり、平常時から関係機関において計画的に観測点を設置していくことも大事である。

<火山観測における関係機関の連携強化>

気象庁から火山観測データの共有について、今後の対応方針を説明。委員からの主な意見等は以下のとおり。

○地元気象台の火山担当職員が観測データを見られる環境を構築すべきであり、今後検討を進めていく。

○観測データを一般に公開した場合、そのデータが正しく理解されない場合もある。それを恐れてデータを公開しないのではなく、正しく理解してもらえるように努め、火山に対するリテラシーを上げていくことが重要である。

<火山専門家の火山防災協議会への参画>

事務局(内閣府)から火山専門家の火山防災協議会への参画状況について説明。委員からの主な意見等は以下のとおり。

○火山によっては非常に狭い分野に専門家が集中していることもある。できるだけ全分野の専門家が協議会に参画することが望ましいが、専門家が少ない分野もあり、どのように今後対応していくかが課題である。

<一体的に火山防災を推進する体制>

事務局(内閣府)から海外における火山防災対策の体制について紹介。委員からの主な意見等は以下のとおり。

○海外においては、火山に関する全ての分野が、一元化された機関の中にある。海外と日本の体制の違いをしっかりと整理し、日本の体制における課題抽出を行うべきである。